

## 令和4年度 理科の夏休み課題（小論文）

今回、1・2年生の理科の夏休み課題として小論文を提出してもらいました。内容は、東日本大震災が発生した2011年から2021年まで、被災地域にある4つの高校（宮古高校、山田高校、岩泉高校、宮古北高校）において生徒の皆さんに書いてもらった『国際支援・異文化理解』に関する小論文の一部をまとめたもの（30編）の中から1つを選び、以下のA～Cについて書いてもらいました。

- A：あなたの選んだ小論文の筆者は、どういう想いでこの文章を書いたと思いますか？  
あなたの考えを80字以上～100字以内で述べなさい。
- B：あなたが共感したのはどういう所ですか？ 80字以上～100字以内で述べなさい。
- C：あなたが選んだ小論文を読み、これからあなたができることを、260字以上～300字以内で述べなさい。

提出してもらった中から、「そんな想いもあるんだ」や「そういう視点もあるんだ」という内容の代表的な小論文を、皆さんにもお知らせしたいと思います。（選んだ小論文も添付）

### （1）（令和4年度宮古水産高校1年 Aさん）（震災当時、年少）

#### A：「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」

母親を亡くし前に進めない状況だったけど、周りの人が支えてくれたおかげで元気を取り戻し立ち直れたので、支えてくれた人達に感謝している気持ちと、いろいろな人に支えられた分、次は自分が恩返しをしようという気持ち。

#### B：「あなたが共感したのはどういう所ですか？」

大切なものをなくす辛さを共感できた。その中で周りの支えがあるとすごく救われると思ったので、誰かが辛いときに助け、人の支えになれるような人間に自分もなりたいと思った。

#### C：「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」

私はこの小論文を読んで、辛い時に少しでも誰かの支えがあるとすごく救われるんだということが分かった。これからは誰かが辛い時や困っている時に、自分が支え助けてあげられるような人になりたいと思う。また、誰かに助けられたら、そのことを絶対に忘れないで、してもらったことを次は自分が返してあげられる人になりたい。そのためには、多くの人と接し、交流関係を持っていた方が助けてあげやすいと考えたので、日頃から地域の活動に積極的に参加し、年齢を問わずたくさんの人と接したいと思う。そして、この小論文の筆者のようにいつ大切な人を失うか分からないので、家族や友人のことをさらに大切にしようと思う。

### 選んだ小論文（震災当時、小6）『3.11から5年を経た今、私ができること』

震災当時、私はまだ幼かった。町では煙があちこちから立ちのぼり、店や家などは跡形もなく崩れ、本来の山田町の姿ではなくなっていた。また、私はこの震災で母を亡くし、前に進むこともできないままとなった。そんな時、私を支え、励ましてくれたのが、家族、友人、他の県の方々、そして外国からの支援だ。

たくさんの方々から支援され、その中で一番心に残っているものは、手紙だ。手紙には励ましの言葉などが書かれており、そのおかげで辛く苦しい日々を乗り越えることができた。また、地域の方々ともお互いに支え合いながら過ごすこともできた。

震災から五年が経ち、私は今、高校3年生となった。この五年間は、長いようで短い日々でもあった。そして、私がこの五年間で一番学んだことがある。それは、人の大切さだ。私は、もともと人見知りで、人となかなか接することができなかった。しかし、多くの方々に支えられていると気づき、そこから私も恩返しのために多くの方々に助けたいと思い、一年生から三年生まで、町で行われているボランティア活動に積極的に参加した。ボランティア活動に参加したことによって、子供からお年寄りまで幅広い年代の方と接することができ、人と接することが好きになった。

元の山田町に戻ることはまだ時間がかかるけど、復興することを信じ、人のために生きていきたいと思う。

## **(2) (令和4年度宮古水産高校2年 Bさん) (震災当時、年中)**

### **A:「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」**

人の心を前向きにするためには人種は何も関係なく、同じ人間からどんな形であれ気持ちがかもった行動をされれば心は助かり、人と人との心を強く結ぶきっかけになるという想い。

### **B:「あなたが共感したのはどういう所ですか？」**

自分も病気で病院に入院した時、今までにないくらい不安と苦しみを体験しました。そんな時、いろいろな人たちからの応援メッセージがあるだけで本当に力になったし、励みになりました。

### **C:「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」**

東日本大震災のことに関わらず、いろいろな辛い経験をした人、している人は、簡単に前を向くことはできません。しかし、前を向く一歩のきっかけを作ると、この小論文を読んで感じました。そこで、自分にできる事は何だろうと考えた時、まず最初に思ったことは、たくさんのいろいろな人たちと会話したり、何か物事を協力して進めたり、人との関わりを少しでも増やすことです。たくさんの多様な人たちと関わることで、心が育てられると私は思います。心が成長すれば、物事への姿勢や態度が変わる。自分だけではなく相手の成長へも繋がる。このような経験を積む機会を増やし、自分を含め人を前向きにできる力を付けたいと思います

## **選んだ小論文(震災当時、中1)『自然災害と国際協力』**

東日本大震災によって被害を受けた私達。その時、私達の当たり前の生活が消えました。食料は無い、物は流され無い、ガス・電気は使えないという状況でした。しかし、絶望という暗闇の中に、世界中から希望の光が届きました。私は日本国内なら可能性はあると考えていましたが、まさか国外のあちこちから支援がいただけるとは考えていなかったため、非常に驚きました。また、支援の形は様々なものでした。衣服や食料もあれば、文房具やバッグ、支援金などがありました。私が支援の中で一番嬉しかったのは応援メッセージでした。日本の国旗に、つたない漢字とひらがなで、「がんばれ！日本」や「遠いこの地から応援しています。笑顔を大切に」等、本当に心の奥底まで深く温かく染み渡る言葉で励まされました。ネットワーク内では、ツイッターやラインを使って日本人と外国人がコンタクトをとり合い、あの時の詳しい状況を国外に伝えることで、被害がどのようなものなのか、何で苦労しているのかを、知らせることができました。

現在、多くの人々の心が復興し始めている、または、復興に向かっている最中です。あんなにも大きな爪痕を受けたのにも関わらず、強く前に進もうと起き上がったのは、温かいメッセージがあったからです。言語や宗教・文化がどんなに違っていようと、嬉しい、悲しい、と感じるものは同じなのです。住んでいる場所が地球の裏側だとしても、人と人の心を強く結ぶきっかけは多くあるのです。

## **(3) (令和4年度宮古水産高校2年 Cさん) (震災当時、年中)**

### **A:「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」**

今の時代は、昔は普及していなかったスマートフォンが世界的に使用されているため、ただ好きなことだけに使うのではなく、世界各国の情報を収集し助け合っていかななくてはならない、ということをお伝えしたいのだと思いました。

### **B:「あなたが共感したのはどういう所ですか？」**

今自分達がすぐにでも出来る行動として、各国の事を知る事がとても重要だと思います。国際的に普及しているSNSを利用する事で、今は簡単に情報を手に入れます。だからこそ、それを有効活用するべきだと思います。

### **C:「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」**

著者の案にあるように、生徒だけでなく保護者や地域の方が多く訪れる学校行事等で募金活動をしてそのお金を世界中で困っている人への寄付にすることが良いと思いました。東日本大震災の時に私達日本人が助けてもらったように、自分の知らない所で困っていて助けを求めている人の力になれる活動をしたいです。そのため、自分自身が国際支援活動やボランティアに積極的に取り組みたいです。また、それだけに限らず、商品を購入すると寄付になる仕組みの活動もあるようなので、進んでそのような商品を購入することも実行したいと思います。

## 選んだ小論文(震災当時、小1)『私ができる国際支援活動』～学生にもできる国際協力～

世界では私たちが知らない様々な問題が起こっている。そこで私たちができる国際協力として、まず「知る」ことが大切だ。問題は認知されて初めて、問題となる。どれだけ忙しい学生でも、スマートフォンを使うことで、世界各国の情報を収集することができる。しかし、終えてはいけない。収集した情報を家族や友達に伝えたり、SNSでシェアするなど、身の回りの人達に国際協力の輪を広げていくことも、学生にできることの一つである。

文化祭で、国際協力に関する展示を行うことも学生にできることだと思う。文化祭は、生徒や学生だけではなく、地域の方や保護者、外部の方が多く訪れる。そこで、国際協力に関するポスターの掲載や世界中の様々な問題を解説する展示を行い、同時に募金箱の設置をする。この取り組み自体が、一つの国際協力に繋がるのではないか。

しかし一番大切なのは、毎日の消費行動を改めることだと感じる。個人的に海外で国際協力に携わるよりも大事なことも知れない。人権や環境、途上国の労働環境に配慮した商品を積極的に購入する。自分の目の前にある商品が、どこで、誰によって、どのように作られ、どのように運ばれてきたのかをよく考えてみることで、少しぐらい高いお金を出しても、環境や人権に配慮したフェアトレード商品やエシカル商品を購入していくこと。このようなことを意識するだけでも問題を根本的に解決する事が可能であり、学生にもできる立派な国際協力だと思う。

### (4) (令和4年度宮古水産高校1年 Dさん) (震災当時、年少)

#### A: 「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」

東日本大震災から十年目の今、私達ができる「伝える」こと、「支援者を知る」ことが大切なのだというのを、東日本大震災の被災者や、そうでない人にも分かって欲しいという想い。

#### B: 「あなたが共感したのはどういう所ですか？」

津波の伝承や教育がなければ大きな被害が出てしまう、だからこそ少しの事でも伝えていくことが必要だという意見に共感しました。また、支援者の存在を忘れてはいけないということにも共感しました。

#### C: 「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」

私も震災を経験していますが、直接見ていないし、避難所に逃げた訳ではないので、その時の人々の反応も分かりません。でも、震災の被害を受けたのに変わりはありません。私は、津波の様子を知ろうとネットで検索して実際の映像を見たり、被災者のコメントを見てどれだけ被害がでていたのかを知りました。そして、動画は話で聞くよりも深く心に刺さってくるのが分かりました。もしも自分が語り継ぐ番になったら、映像を見せてからどのような出来事だったのかを話して伝えていきたいと思います。

少し未来の話をしてしまいましたが、「今」の自分にできることは、まず震災を知り、地震や津波に備えておく事だと思います。

## 選んだ小論文(震災当時、小2)『東日本大震災から十年目の今、私ができること』

私は、小学校2年生の時に東日本大震災に遭いました。それからもう10年が経ちます。あの時の私は逃げることに精一杯で他の人のことなんて考える余裕はありませんでした。ですが、あの日から10年。町も復興したり、発展している中で私にできることは、2つあると思います。

一つ目は、後世に伝えていくことです。アチェの人達も震災の記録を残そうとしているように、私達も震災について記録したり、語り手として内陸の人や津波を知らない世代の人に伝えていかなければいけないと思います。もし、津波の伝承や教育がなければ大きな被害が出るのは目に見えています。だからこそ、少しのことでも伝えることが必要です。

二つ目は、自分達のことを思ってくれている人が必ずいることを知ることです。震災を経験した私は、周りの人や日本人しか心配してくれていないと思っていましたが、授業で「OMOIYARIのうた」を聞いた時に、日本だけではなく世界の人が自分達のことを思ってくれていたことを知りました。その時には気がつくことのできなかつた支える力があることを知ることができました。

私は、震災の時の記憶が薄れつつあります。それでも、忘れないように時々考えながら生活しています。10年経った今の自分なら、あの日のことをもっと上手く説明できるかもしれません。伝えること、支援者のことを知ること。これは、今後も必要だと思います。

**(5) (令和4年度宮古水産高校2年 Eさん) (震災当時、年中)**

**A: 「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」**

筆者は、さまざまな環境破壊が行われていることや、人間が生きやすさを求め過ぎたことで、かえって人間の住める場所を失ってしまっているという現状を変えるために、何をすべきかを考えようとしている。

**B: 「あなたが共感したのはどういう所ですか？」**

人間によってさまざまな環境破壊が行われ、人間の住める場所を失っているということ、自然と共生し、大量消費の考えを改め物を大切にすることでいくなかだという所に共感した。

**C: 「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」**

この小論文を読み、正直私にできることがあるのか悩みました。私自身がリサイクル技術の向上などをできるわけではないからです。でも、ペットボトルをリサイクルすることや廃棄量を少なくすることはできます。もちろん、私一人が気を付けても皆が気を付けないと意味が無い、とも思いましたが、小さな力も集まれば大きな力になるのだと思い直し、そのきっかけに私自身がなれば良いと考えました。

この小論文では、日本という大きなくくりで述べていて、自分一人ではどうすることもできないと最初は思いましたが、「じゃあ誰がやるの？ 総理大臣？ 知事？」ではなく、日本に暮らしている私も含めた日本人一人一人が実行することが重要だと思います。そして、日本に暮らしているからには、今まで以上に環境について深く考えていきたいと思っています。

**選んだ小論文(震災当時、中2) 『地球環境の保全と日本の役割』**

今、地球上では、人間によってさまざまな環境破壊が行われている。二酸化炭素等の増加による温暖化、温暖化により氷河等が溶けるために起こる海面上昇、フロンガスによるオゾン層の破壊、等々、たくさんの環境問題があるが、どの問題にも共通していることがある。それは、人間が生きやすさを求めて科学を発展させ過ぎたことが原因であるということだ。人間は人間によって住める場所を失ってきているのだ。この問題は、今や先進国のみが考えるものではない。豊かになろうと産業に力を入れてきている発展途上国の問題でもある。日本をはじめ、科学の発展した国では、環境に配慮した産業がある程度可能である。しかし、発展途上国では難しいのが現状である。だからこそ日本は、現在ある環境に配慮した科学技術を世界にもっと広めていくことが重要である。科学の発展によって地球環境の破壊を進めてきた国のひとつである日本は、発展途上国に援助を行い、環境保全に積極的に取り組むべきである。

そのためにも、まずは日本が、今の経済中心のライフスタイルから、自然と共生し、物を大切に考える考え方へ改めるべきである。リサイクル技術の向上や、クリーンエネルギーの推進に力を入れることも重要である。いずれにしても、日本は、環境破壊を食い止める重要な立場にあるということを知覚する必要がある。

**(6) (令和4年度宮古水産高校2年 Fさん) (震災当時、年中)**

**A: 「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」**

衣服や食糧・お金など、人間の生活に直接必要となるものだけではなく、人々の心のケアや癒しになるような画材やぬいぐるみ等、辛い経験を忘れさせてくれるような物も必要だという想い。

**B: 「あなたが共感したのはどういう所ですか？」**

私自身、被災した幼い頃に絵を夢中になって描いていて、直接的な支援になる衣服や食糧・お金も大切だが、そのような心の拠り所になるような物も同じくらい大事だったと思い、共感した。

**C: 「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」**

今、日本以外にも世界各地でいろいろな災害が起きていて、新型コロナも加わり、大変な思いをしている人がたくさんいる。筆者が言うように、被災した方たちのために、すぐにボランティア活動や募金などの行動ができるような人間になりたい。募金なら、1円からでもすぐできるので、次に大きな災害があった際には積極的に支援したい。

自然災害以外でも、新型コロナで大切な人を失ったり、自分自身が後遺症で苦しんでいる人がいるので、その人達の支援もどのような形でもいいのでやりたいと思う。

また、日本ではいつ災害に遭ってもおかしくないのだから、一人一人が危機感を持ち生活していく必要がある。

## 選んだ小論文（震災当時、小2）『私ができる国際支援活動』

私にできる国際支援は、シンプルに募金活動や物資の支援だと思います。近年、日本以外の国でも地震の被害が出ています。何かできることがないかと考えた時、私は東日本大震災のことを思い出しました。

地震に怯える日々の中で、私の唯一の楽しみは絵を描くことでした。その時使っていた画材はゲルクレヨンというもので、海外の方が支援物資として送ってくださったものでした。今まで触れたことのない画材、そして絵を描ける嬉しさから、私はずっと筆を走らせていました。

両親の話を知ると、両親が小学生の時にも海外で震災があったそうです。その時、募金箱を作って学校中を歩いて回った、と聞きました。その頃は生徒数も多かったので、すぐにある程度の金額が集まり、それを被災地へ寄付したそうです。そのような活動を自主的に出来るようになりたいと思いました。

自分がそうであったように、私たちの募金や支援物資を受け取って少しでも助かる人がいるのであれば、自己満足かもしれないですが、恩返しになるのではないかと思います。

立派なことを成し遂げようとするより、いち早く援助になる募金活動や物資の支援を最優先させた方が、即戦力の援助になると思います。そして、衣服や食糧だけではなく、子ども達のために画材やぬいぐるみを送ることも必要だと思います。

## （7）（令和4年度宮古水産高校1年 Gさん）（震災当時、年少）

### A：「筆者は、どういう想いでこの文章を書いたのか？」

国際協力はただ物資を送ることではなく、お互いがお互いを助けたい、力になりたいと思う気持ちから始まっていくから、その気持ちを持つことがとても大切だという想い。

### B：「あなたが共感したのはどういう所ですか？」

避難所にボランティアに行き、外国人ボランティアも多くいた中、一人がおばあさんの肩をもみ「僕らがいるよ」と片言でおばあさんに寄り添って話していたところ。

### C：「選んだ小論文を読み、これからあなたができることは？」

この小論文を読んで、高校生の私が出来た事は、震災の事を知らない人に伝えていくことだと思いました。私が中学の時、震災のことで沿岸代表として中文祭に参加した時に、内陸の人達は震災について知っている人が少ないことを知り、「同じ県に住んでいるのに・・・」と驚きました。私も知っていることは少ないけれど、被害を受けていない地域の人達や、震災後に生まれた子供達に少しでも多くの被害や、地震や津波の恐ろしさを伝えたいです。

また、多くの方々がボランティアや支援をしてくれたことも忘れず、私も助けることができるようにしていきたい。

## 選んだ小論文（震災当時、高2）『私が考える(できる)国際協力や支援活動』

私が考える国際協力とは、ただ物資を送るということではないと思う。お互いがお互いを助けたいという気持ちを持つことこそが国際協力なのではないかと考える。

今、世界では紛争が起きていたり、飢餓で苦しむ人がいたりたくさん問題を抱えている。そして、3月11日に東日本大震災が起き、支援が必要な人が大勢いる。大震災を経験し、人の命の尊さ、今までの自分の生活がどれだけ贅沢だったかなど様々なことを考えさせられた。中でも強く思ったことは、協力し合うことの大切さだ。避難所にボランティアに行ったおり、外国のボランティア団体も多く見かけた。その中の1人がおばあさんの肩をもみ「僕らがいるよ」と片言で話しかけていた。そしておばあさんが「力になりたいって思ってくれることが一番うれしいよ」と言っていた。私はその通りだと思った。確かに、物資の支援がとても大切で、物資がないと生きていけない人もたくさんいると思う。でも、力になりたい、助けたいと思うことが支援される側も一番嬉しいと思うし、その気持ちが一番大切なことだと思う。力になりたいと思う気持ちから国際協力は始まっていくので、その気持ちを持つことが大切だ。

世界には、まだまだ知らない問題があると思う。私は問題を知り、理解することから支援につなげていきたいと思った。